

あれこれかあ



ICHIKAWA LIBRARY

参考業務月報

2025年3月号

発行：市川市中央図書館 編集：レファレンスカウンター 〒272-0015 市川市鬼高1-1-4 TEL047-320-3346

	INF	REF	こども	電話	メール	中央計	行徳	BM	南行	信篤	平田	駅南	全館計
3月	768	380	575	10	4	1,737	618	55	192	224	70	520	3,416
累計	9,597	5,190	6,104	566	48	21,505	8,688	669	2,021	2,776	913	6,168	42,740

INF:インフォメーション・カウンタ REF:レファレンス・カウンタ BM:自動車図書館

📖 今月のレファレンス記録票から

分類	質問と内容
----	-------

210.5 江戸時代の年貢について、米が不作の時や品質が悪い時にはどのように納めていたのか。

『江戸幕府大事典』（大石学／編 吉川弘文館 2009）p.961-962「年貢」の項に、「石高制のもとにあった近世の年貢は、米で納入することが原則であったが、石代納こくだいのうといって、金銀銭の貨幣によっても納入された。（中略）百姓側からの請願により、石代納が認められることがあった。上納に適した品質の米が得られない場合、あるいは、米の算出が少ない地域などにみられ、これを願石代ねがひという。」とあった。

『幕藩制社会の展開と米穀市場』（本城正徳／著 大阪大学出版会 1994）p.90「幕領買納制の基本類型」の項に、「買納制とは、①自然災害による米質の低下や輸送中の自然減量・事故等によって年貢米の不足が生じた場合、②幕府の許可を得たうえで、③自村米相当の品質を有する他産地米を、④江戸等の納所（年貢米納入地）において購入し、再納入する（農民側に再納入させる）制度であった（後略）」とある。

『国史大辞典 3 か』（吉川弘文館 1983）p.86-87「買納」の項に、「江戸幕府は、納米不足勝ちの村に、あるいは不作で米質が悪く納米にならない場合、輸送中に減量した場合、選出米・沢手米が生じた場合などに、江戸・京都・大阪などの納所で、自村年貢米相当の御蔵米または町米を買い入れ、それを納めることを許した。これを買納という。」と記載があった。

210.7 戦後の連合軍占領下の日本について、アメリカ以外の国の軍人や民間人が書いた随筆や紀行文はないか。

『日本占領の日々 マクマホン・ボール日記』（マクマホン・ボール／著 アラン・リックス／編 竹前栄治／訳 菊池努／訳 岩波書店 1992）は、在東京対日理事会の英連邦代表であったオーストラリア人の著者によって書かれた日記で、対日理事会メンバーによる唯一の資料である。

『英国空軍少将の見た日本占領と朝鮮戦争』（サー・セシル・パウチャー／著 レイディ・パウチャー／編 加藤恭子／訳 今井萬亀子／訳 社会評論社 2008）は、英連邦空軍司令官として赴任したイギリス人による回想録で、著者の個人的な体験から日本占領時の連合軍側の実情が垣間見える。

『日本占領の記録 1946-48』（E・H・ノーマン／著 中野利子／編訳 人文書院 1997）は、カナダの歴史学者・外交官で、戦後GHQに配属されたノーマンにより記されたカナダ外務省への報告文書である。連合軍カナダの政府代表は、占領軍司令部や連合軍の対日理事会、日本の民間組織に自由に接触することができたため、比較的客観的な視点で占領下の日本について記録されている。

904 猫が登場する海外文学作品が知りたい。

『図書館司書 30 人が選んだ猫の本棚』（高野一枝／編著 郵研社 2021）は、猫に関する本 299 冊を紹介したブックガイドで、海外文学作品についても紹介されている。紹介文に加え、「司書のおすすめひとこと」も記されており、本を選ぶ際の一助となる。

『猫好きに捧げるショート・ストーリーズ』（ロアルド・ダール／[ほか]著 M・J・ローゼン／編 岩元巖／[ほか]訳 国書刊行会 1997）、『魔猫』（エレン・ダトロウ／編 佐々木信雄／[ほか]訳 早川書房 1999）はいずれも英米文学の猫に関する作品を集めたアンソロジー。

ほかにも『物語要素事典』（神山重彦／著 国書刊行会 2024）の p.782-784 に「猫」、p.784-785 に「猫と鼠」の項があり、猫が物語の要素となっている本の紹介がある。

また、雑誌『ハヤカワミステリマガジン 1997 年 2 月号』（早川書房）は、「猫たちのミステリ」特集で、海外文学の短編作品 4 編が掲載されている。

他にもこんな質問ありました（クイック・レファレンスから）

分類	質問	⇒ 回答、補足事項、蘊蓄など
911.16	「スリッパ」、「非常階段」、「非常口」という言葉が使われている短歌をそれぞれ知りたい。	⇒ 『角川現代短歌集成 別巻 索引・歌壇年譜』（岡野弘彦／[ほか]監修 角川学芸出版 2009）の語彙索引でそれぞれの単語を引き、『角川現代短歌集成』（岡野弘彦／[ほか]監修 角川学芸出版 2009）全 4 巻の何巻に掲載されているかを確認。「スリッパ」は『角川現代短歌集成』1 巻 p.183、2 巻 p.92、p.118、3 巻 p.192、4 巻 p.57 に 5 首、「非常階段」は、前出 1 巻 p.303、p.321、2 巻 p.245、3 巻 p.347 に 4 首あり。「非常口」は、前出 1 巻 p.320 に 1 首掲載あり。
K376	外国の小学生の生活を写真で紹介している本はないか。	⇒ 『アジアの小学生 1～6』（河添恵子／取材・編集・執筆 学研教育出版 2011）、『ヨーロッパの小学生 1～6』（多田孝志／監修 学研教育出版 2012）を紹介。それぞれの国ごとに小学校での授業やスケジュール、小学生の家のくらしについて取り上げている。
K481	小学生の子どもと落ち葉の下の生き物探しをするので、落ち葉などを分解するダニ、トビムシといった節足動物が載っている本を探している。子ども向けと大人向けを紹介してほしい。	⇒ 子ども向けとして、『おちばのしたをのぞいてみたら…』（皆越ようせい／写真と文 ポプラ社 2000）、『落ち葉のふしぎ博物館 ゲッチョ先生の落ち葉コレクション』（盛口満／文・絵 少年写真新聞社 2017）、大人向けに『土の中の小さな生き物ハンドブック』（皆越ようせい／文・写真 渡辺弘之／監修 文一総合出版 2005）、『ダンゴムシの本』（奥山風太郎／著 みのじ／著 DU BOOKS 2013）を紹介。
K769	バレリーナが出てくる絵本で写真が多いものはあるか。	⇒ 『バレエスクール』（ナイア・ブレイ モファット／著 白川直世／訳 文園社 2005）、『パリのちいさなバレリーナ』（MIKA POSA／著 講談社 2006）の写真絵本 2 冊を紹介。
K908	小学校の教科書に載っていた大石真の「貝がら」という物語の全文が読みたい。	⇒ 光村図書の小学国語教科書の作品を精選したアンソロジー『光村ライブラリー 6』（樺島忠夫／[ほか]監修 山下明生／[ほか]著 渡辺茂男／[ほか]訳 杉浦範茂／[ほか]挿画 光村図書出版 2002）p.53-p.63 に教科書のための書き下ろし作品として全文が掲載されていた。同書より、昭和 46 年から 54 年度版の四年生の教科書に収録されていたことがわかる。
E	小学校の特別支援学級での読み聞かせに使えるおすすめの絵本はあるか。色がはっきりしているものや擬音の絵本が好まれるようだ。	⇒ 色がはっきりしている絵本では『だくちるだくちるはじめてのうた』（阪田寛夫／文 長新太／絵 福音館書店 1993）、『ぼくのくれよん』（長新太／おはなし・え 講談社 1993）を紹介。また、擬音語絵本として建物の建築と解体を擬音でリズムカルに描いた『たてる』『こわす』（ともに、サリー・サットン／さく ブライアン・ラブロック／え あらやしょうこ／やく 福音館書店 2019）を紹介。
E	以前借りた絵本を探している。主人公は「キャベツ太郎」のような名前だった。	⇒ 「キャベツ」という単語から、野菜の忍者たちが活躍する「野菜忍列伝」シリーズではないかと推測し検索したところ、『伊賀のキャベ丸』（川端誠／作 BL 出版 2018）がヒット。利用者に確認したところこの絵本であるとの回答を得た。